

Disease burden estimates for lung cancer in Japan

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2012-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千村, 浩 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001430

順天堂大学 博士(医学)

氏名 千村 浩

論文題名 Disease burden estimates for lung cancer in Japan

(わが国の肺がんによる疾病負担の推計)

論文内容の要旨

保健医療政策の優先順位付けを行うために疾病別の疾病負担データは重要である。さらに、今後の政策を策定するには現状の疾病負担のみならず、その将来予測もまた重要となる。疾病負担の指標としては死亡率の他、罹患率や有病率、さらに最近では統合指標である DALY (Disability-adjusted life years) が用いられることが多い。本稿では、わが国の DALY を指標とした疾病負担の将来予測を、肺がんをモデルとして実施し、その課題と問題点を明らかにすることを目的とした。予測にあたっては、まず既存資料より性・年齢階級別の総死亡率、肺がん死亡率の他、有病期間、治癒率等のデータを用い、2000年における DALY による疾病負担を算出した。さらに、1987年から2006年までの性・年齢階級別死亡数と1987年から2006年までの罹患数をポアソン回帰にて2037年まで推定し、肺がんの推定死亡率及び罹患率を求めた。さらに、この推定死亡率、罹患率、及び将来推計人口から DALY による将来の疾病負担を算出した。その結果、男性の肺がんによる DALY は2035年まで漸増を続け2035年までにほぼ平衡となるが、女性は2035年まで増加割合を一定に保ったまま漸増を続けた。DALY 中の YLD (Years of Life with Disability) が占める割合は男性、女性とも漸増傾向を示したが、女性の方がその占める割合が大きく、また伸びも大きくなった。今回のモデルは肺がんの罹患率に大きな影響を及ぼす喫煙率の変化については考慮しておらず、また、医療技術により変化が予測される致命率も一定としている。これらへの対処としては推定罹患率や致命率に関して幾つかのシナリオを用意した感度分析を行うことも今後必要であろう。今回の報告においては DALY による疾病負担の将来予測の一つの方法を比較的データの整っている肺がんをモデルとして示したが、今後は、他の疾患においても将来予測を進めることにより疾患別の疾病負担の比較を行うことが施策決定に役立つものと思われる。